

循誘小学校にある木を知ろう!

※この記事は公民館講座「樹木の勉強会」(10月23日開催)の内容の一部を紹介したものです。

循誘小学校には174本、166種類(※個人調べ)の樹木があります。樹木にはそれぞれ特徴があります。それらを観察しに、小学校へ足を運んでみてはいかがでしょうか。(観察をされる場合は必ず事務室で許可を得てください。)

教えてくれたのは...



野中千恵子さん
(佐賀県親林交流指導員)



古川正広さん
(地域ボランティア)



小学校玄関前にあります。「神聖な木」と言われているので、玄関にあるのかもしれませんが。松ぼっくりは「シダーローズ」といわれ、バラの形をしています。クリスマスリースにぴったりです。

ヒマラヤスギ



ソテツ



日本の南部に生息する植物です。雄の木と雌の木があります。循誘小学校にあるのは雄の木です。



象の鼻みたいな大きな雄しべがあります。

月桂樹



公民館での「カレーの日」でもよく使われています。



葉は乾燥させて煮込み料理などに使うハーブとなります。葉っぱは甘い香りがするので虫が付きやすいのが難点です。

ケヤキ



ほうきを逆さまにしたような形です。木目がきれいなので、神社の鳥居や大黒柱によく使われました。ブナの木とよく似ていますが、山の上の方に生息するのがブナ、下のまほうに生息するのがケヤキです。老木は皮がポロポロと剥げやすくなります。

イヌツゲ



櫛の原料となる「ツゲ」とは別の種類です。

イヌマキ



秋に実る緑色の実の下についた赤い部分は甘くて食べられます。

ヒイラギ



名前の由来は「ひいろぐ=痛い」という意味から来ています。木が成長するとトゲトゲの葉が丸みを帯びてきます。人間と一緒にですね。ヒイラギの実は黒です。みなさんがクリスマスにイメージする赤い実のヒイラギは「セイヨウヒイラギ」と言い、別の種類です。

タイサンボク



香水の原料となります。晴れた日よりも曇りの日に良い香りがします。葉の表は緑ですが、裏に茶の細かい毛が生えていて、下から見上げると、茶の葉のように見えます。



イロハモミジ



葉の数が7枚あり、昔の人はイロハニホヘトと数えたことからこの名前が付いたそうです。落ちた葉を撤去せず、そのままにしておくとそこから若芽が生え、雑草が生えなくなるといった便利なお話がありました。

江戸時代、鍋島藩はロウソクの原料にするためにこの木を植えることを推奨しました。そのためか、今でも佐賀の町でよく見かけます。そのために木の実を好むので、鳥が種を落とすことがあります。鳥が知らないうちに自生していることがよくあります。知

ナンキンハゼ



アカマツとクロマツ



アカマツは女松(メマツ)とも呼ばれ、葉があまり痛くなく、優しい感じですが、日当たりが良い場所を好むので、山の尾根に生息し、根元にマツタケが生えます。



クロマツは男松(オマツ)とも呼ばれ、葉は固く痛いですが、強い感じですが、防風林としてよく海岸沿いに植えられると思います。根元に松露が生えます。マツタケや松露は松の根と共生しており、お互いに生育を助けている「持ちつ持たれつ」の関係です。

ツバキとサザンカ

ツバキの葉



ツバキは「艶葉木」とも書くように、葉に艶があり、広めです。花が咲いた後、花首から落ちます。サザンカは葉がツバキほど広くなく、花びらが落ちます。

サザンカの葉



植物の名前で「イヌ」と付くのは「本物に似ているけどちょっと劣る」という意味なんだって。失礼しちゃうわ!



循ちゃん

番外編



鳥が種を落とすとしてそのまま育つた学校脇を流れる川の護岸を崩したのが原因で成長しています。木は人間にとつて有益な物ですが、そのためには、適切な管理も必要です。